

invested in insights

eastspring
investments

A Prudential plc (UK) company



AI時代、 なぜアジア・テクノロジーなのか - 世界のAI革命を支えるアジア企業の 競争優位性と成長機会

**Eric Lin**

ポートフォリオ・マネジャー
イーストスプリング・インベストメンツ（台湾）

**Ken Wong**

クライアント・ポートフォリオ・マネジャー
イーストスプリング・インベストメンツ（香港）

ポイント

- ▶ 生成AIへの期待が高まり始めて以降、アジアのテクノロジー企業は米国のテクノロジー企業を上回るパフォーマンスを示してきました。
- ▶ アジアのテクノロジー企業は、AIモデルそのものを開発する企業というよりも、半導体、ハードウェア、インフラといったAIの実装・普及を支える基盤を提供する存在として、AIエコシステムにおいて重要な役割を担っています。
- ▶ 世界の主要テクノロジー指数において米国企業が約76%を占める中、多くの投資家の資金や関心が米国市場に集中する傾向がみられます。その一方で、アジアには魅力的な投資機会や、将来の成長を担う有望なイノベーション企業が数多く存在しており、こうした機会が十分に認識されていない可能性もあります。アジア・テクノロジー株への戦略的な投資配分は、こうした成長機会へのアクセスを広げ、投資対象の多様化を図るうえで有効な選択肢の一つと考えられます。

近年、AI関連の米国テクノロジー企業が市場の注目を集めてきましたが、AIによる恩恵を最も大きく享受する企業は、むしろアジアに存在しているとみています。

生成AIへの期待が高まり始めた2022年10月1日以降、アジアのテクノロジー株は423%上昇し、米国および世界のテクノロジー株をそれぞれ228%、221%上回るパフォーマンスを示しました。

こうした良好な実績にもかかわらず、アジアのテクノロジー株は依然として米国のテクノロジー企業と比較して魅力的なバリュエーション水準にあり、利益成長率についてもより高い成長が期待されています。（次頁、図表1、図表2）。

アジアのテクノロジー企業は米国のテクノロジー企業と何が異なるのか

米国のテクノロジー企業がAIモデルやクラウドサービス、アプリケーションの開発を主導しているのに対し、アジアのテクノロジー企業は、AIの実装と普及を支える基盤を提供する重要な役割を担っています。具体的には、半導体、ハードウェア、インフラといった領域において、AIの発展に不可欠な製品や技術を供給しており、AIエコシステムを支える「縁の下の力持ち」として存在感を高めています。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。
最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

※ご留意いただきたい事項を最終ページに記載しております。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

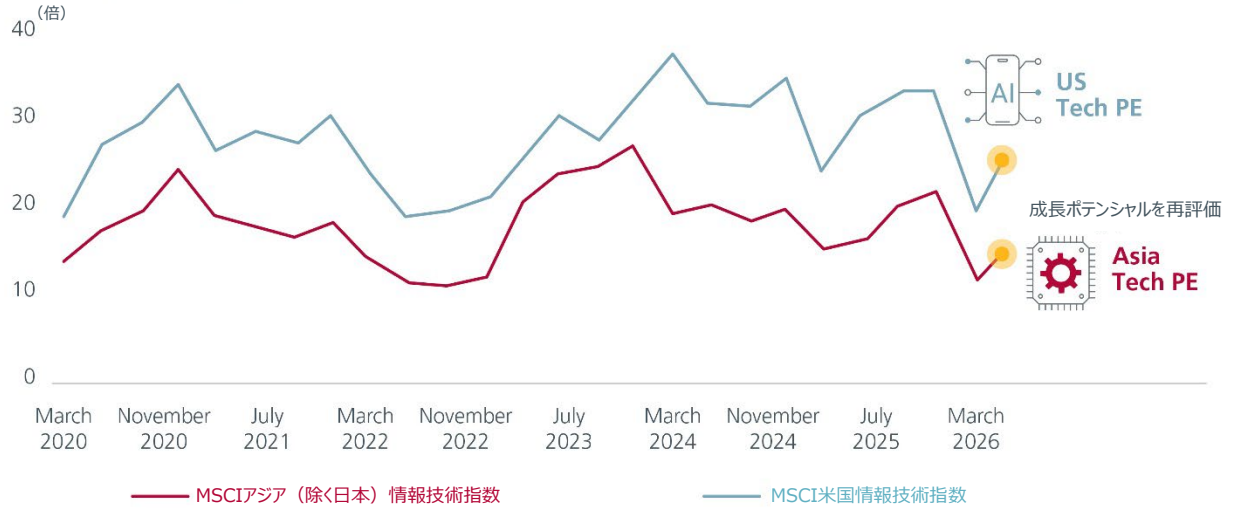
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人資産運用業協会

260813(03)

invested in insights

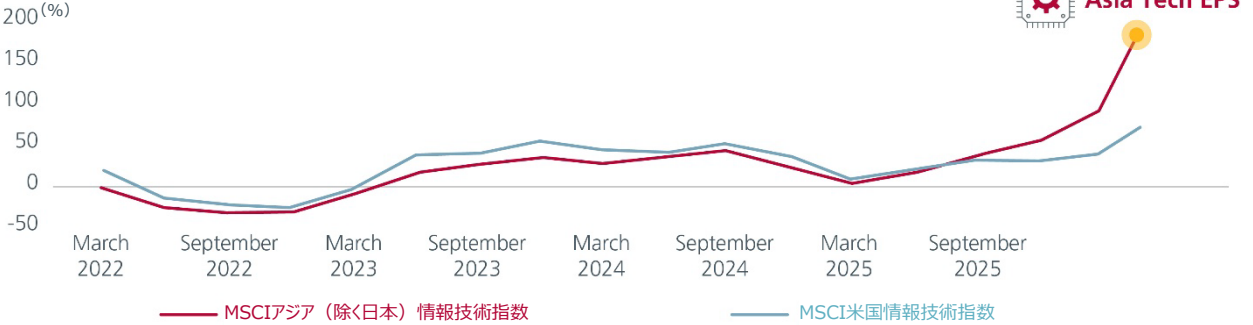
図表1：アジア・テクノロジー株の魅力的なバリュエーション

アジア（除く日本）および米国の情報技術指数の予想PER



図表2：アジア・テクノロジー株の高い利益成長力

アジア（除く日本）および米国の情報技術指数の予想EPS年平均成長率



例えば、AIサーバーの構成要素の中には、光トランシーバーや冷却ファン、冷却モジュール、受動部品、サーバーシャーシなど、アジア企業が高い競争力を有する重要部材が数多く含まれています。また、フィジカルAIやロボティクス分野においても、アクチュエーター（駆動装置）やセンサー、バッテリーなどの主要部品をアジア企業が供給しており、AI技術の現実社会への展開を支える役割を果たしています。

このように、アジアのテクノロジーセクターは米国とは異なる産業構造を有しており、その特性は投資にも反映されています。MSCIアジア（除く日本）情報技術指数は、ナ

スダック指数およびMSCI米国情報技術指数との相関が0.6未満となっており、アジア・テクノロジーは米国テクノロジーとは異なる値動きの特性を持つことが示されています。こうした特徴は、既に米国あるいはグローバルのテクノロジー株を保有している投資家にとって、ポートフォリオの補完的な投資対象としての魅力につながる可能性があります。

さらに、アジアのテクノロジー市場は、半導体やハードウェアのみならず、多様な産業分野と市場に広がっていることも特徴の一つです（次頁、図表3）。そのため投資家は、幅広い投資ユニバースの中から成長機会を発掘し、超過収益の獲得を目指すことが可能になると考えられます。

Invested in insights

アジアのテクノロジーセクターは幅広い産業分野にまたがっており、投資家はAI関連分野にとどまらず、多様な成長テーマにアクセスすることが可能です。具体的には、電気自動車（EV）や自動運転、ヘルスケア・テクノロジー、デジタル・ペイメント、Eコマース、さらにはデジタル・トランスフォーメーション（DX）など、さまざまな分野における構造的な成長機会への投資が期待されます。

投資機会は市場全体に一律に存在するわけではありません。現在の市場の注目は、主として米国市場に上場している一部の企業に集中していますが、それだけではAIエコシステムの一部しか捉えることができません。AIが開発される場所と、その普及・拡大を支える場所を区別して捉えることが、ますます重要になっています（図表4）。

図表3：グローバルAIエコシステムにおけるアジアの強み



出所：イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）、BofA リサーチ。2026年5月。
 ※上記はあくまでも過去の実績であり、将来の結果をお約束するものではありません。#は各項目の国別ランキングを表示。

図表4：世界の半導体サプライチェーンの例



出所：BCG（Gartner、SEMI、UBSのデータを基に分析）、SPEEDAのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。

invested in insights

アジアの優位性を支える重要な要因の一つとして、長年にわたって培われてきた人的資本と技術的な知見が挙げられます。アジア企業は、消費者向け電子機器に使用される高精度部品の量産を数十年にわたり手掛けてきた実績を有しており、その過程で規模、生産精度、インテグレーション、そして開発・製造スピードにおいて他地域が容易には模倣できない競争優位を築いてきました。こうした蓄積されたノウハウは、現在ではAI関連インフラに不可欠な高度かつ複雑な部品の製造にも活用されており、アジアのテクノロジー企業の競争力を支える重要な基盤となっています。

また、アジアのテクノロジー・サプライチェーンは、長期にわたる産業政策と官民一体となった投資によって形成されてきました。各国・地域の政府は数十年にわたり、インフラ整備、人材育成、戦略産業への支援を継続的に推進し、公的政策と民間企業の成長が相互に補完し合う環境を構築してきました。その結果、アジアでは強固な産業エコシステムが形成され、技術革新や生産体制の高度化を支える基盤が整えられてきたと考えられます。

足元では、欧米諸国を中心に生産拠点の国内回帰（リショアリング）やサプライチェーンの現地化を進める動きがみられます。しかしながら、アジアの優位性は個別企業の技術力や製造能力だけでなく、地域全体に広がるサプライヤー網、人材基盤、インフラ、そして長年にわたり築き上げられた産業間の相互補完関係によって支えられています。そのため、アジアのサプライチェーンを再構築・代替することは容易ではなく、高い参入障壁になっていると考えられます。

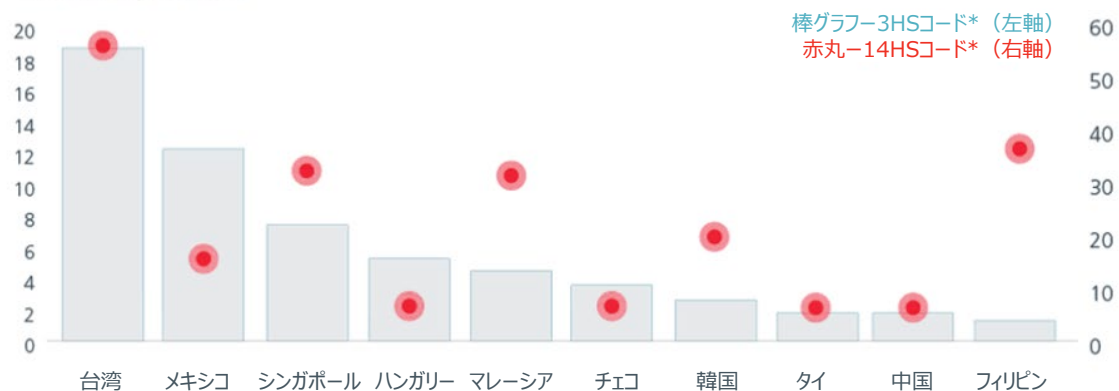
このような背景から、AI関連需要の中心は米国が担っている一方で、AI関連製品や部材の生産拠点としてはアジアの存在感が一段と高まっています。AIの発展に必要な半導体や各種ハードウェア、関連部品の供給においてアジアが中核的な役割を果たしており、AI関連製品はアジア各国の輸出においても重要な位置を占めています（図表5）。

AIの投資機会をどのように捉えるべきでしょうか。現在のAIサイクルは、1990年代のテクノロジー・サイクルと比較すると、依然として初期段階にあると考えられます（図表6）。各種調査機関の予測によると、世界のAI市場規模は2025年の3,000億米ドル超から2030年には約1.2兆米ドルへ拡大する見通しであり、それに伴い累計で3～5兆米ドル規模のAI関連投資が実施される可能性があります。こうした投資の拡大は、AI向け半導体やAIインフラのみならず、テクノロジーセクター全体に幅広い恩恵をもたらすことが期待されます。

一方で、この成長シナリオの実現には、いくつかの課題にも留意する必要があります。例えば、データセンターにおける電力供給制約、半導体チップや製造装置の生産能力不足、輸出規制の強化などは、AI関連投資の拡大ペースに影響を与える可能性があります。また、AIの収益化や実社会への普及がどの程度のスピードで進展するかについては依然として不透明な部分があり、加えて、プライバシーやセキュリティへの懸念、規制や制度面の整備動向も注視すべき要素と考えられます。

図表5：アジア主要市場における輸出全体に占めるAI関連製品の割合

輸出に占める割合（％、2025年）



出所：UN Comtrade、IIFのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。
中国・台湾・韓国は2024年、シンガポールは2025年9月までのデータ。*HSコード：世界税関機構の統一商品分類システム。

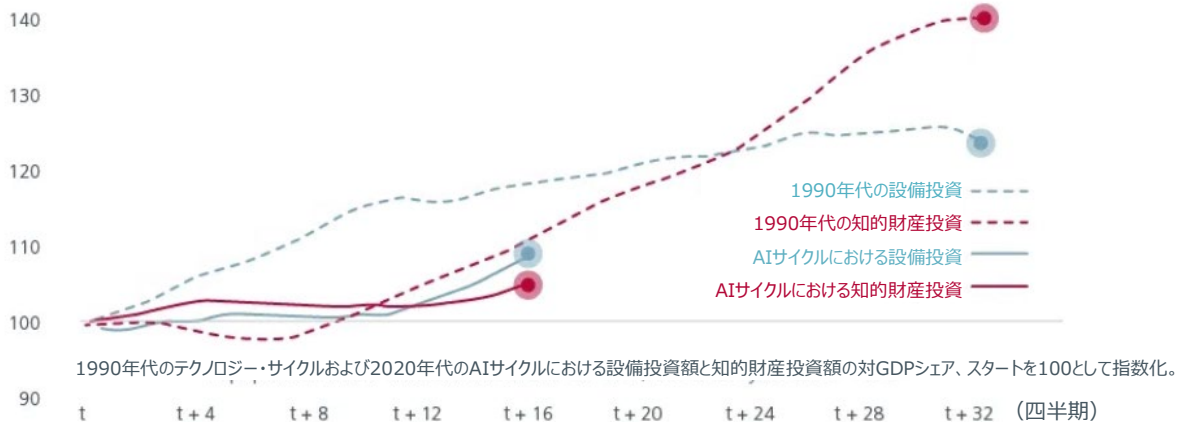
invested in insights

最終的に、AIがもたらす成長機会の恩恵を享受できるかどうかは、各国政府や企業がこれらの課題にどれだけ効果的に対応できるかに左右されると考えられます。AIは今後も世界経済や産業構造の変革を牽引する重要なテーマであると期待される一方、その成長の果実を獲得するためには、技術革新だけでなく、供給体制、規制環境、社会実装といった幅広い観点から投資機会を見極めることが重要となるでしょう。

グローバルなAIエコシステムを支える基盤として、アジアは今後も世界のテクノロジー・インフラの中核的な役割を担い続けると考えられます。アジアのテクノロジー・エコシステムは長年にわたり構築されてきたものであり、その複雑かつ高度に統合された産業基盤は容易に再現できるものではありません。また、アジアのテクノロジー株は依然として魅力的なバリュエーション水準にあることも注目されます。

一方、世界の主要テクノロジー指数において米国企業が約76%を占めていることから、投資家はアジア・テクノロジー企業への投資がもたらす魅力的な投資機会や、新たな成長を牽引するイノベーション企業の存在を見落としてしまう可能性があります。そのため、アジア・テクノロジー株への独立した投資配分は、こうした成長機会へのアクセス手段として有効な選択肢の一つとなり得ると考えられます。

図表6：AIの設備投資サイクルは依然として初期段階



出所：BEA、IIFのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。
1990年代のテクノロジー・サイクルは1993年第1四半期、AIサイクルは2022年第1四半期を基準（=100）として指数化。設備投資および知的財産投資の対名目GDP比率。

本稿は、AIのテクノロジー・サイクルの進展と成熟に伴って拡大するアジアの投資機会を考察する全5回シリーズの第2回目です。次回は、「なぜアジアがAIサーバー構築の中核を担うのか」をテーマに、AIサーバー・エコシステムにおけるアジアの競争優位性について詳しく考察します。

MSCI 指数はMSCI Inc. が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

＜当資料に関してご留意いただきたい事項＞

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）が作成した資料をもとに、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業や業種・テーマに言及することがありますが、当該企業の株式／債券や業種・テーマについて組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。○抄訳には正確性を期していますが、必ずしもその完全性を担保するものではありません。また、必ずしも原資料の趣旨をすべて反映した内容になっていない場合があります。